

人にすれば一生懸命ない頭をひねって最良の手を考えているものなのです。さて、前置きはこの位にして、T.O.C.囲碁部は八月以来毎土曜日PM八・〇〇より定期練習を続けております。現在部員は一五名ですが常時メンバーは五名程度ですが、夜が更けるのも忘れて打終ってみると十二時を越えているのが常です。八月に足つき碁盤を一面買入れて、はりきってやっております。

初心者の方もおおせすに是非一度見学かたがたおいで下さい。囲碁を始めて知りたいと思われる方でも結構です。私自身も囲碁を知って本当に良かったと思っています。何処にいてもたいくつすることがありません。独りだけでも結構「詰碁」で遊べますし、たとえ病気になるっても充分に楽しめます。しかも経費はほとんどかかりませんし精神的にも充分に満足出来ます。囲碁はまぎれもなく日本文化の一端をにぎっているといってもいいすぎることではないと思います。「お茶」「お花」と肩を並べても決してひけをとらないと思っているのは私だけでしょうか。先日大竹九段が新名人位をとってT.O.C.の対談の中でアナウンサーがどうしたら強くなるか出来るかと云う質問をしたところ「そんなものがあれば、お金を払っても私が知りたい」と新名人が語っていたのが印象的でした。

およそ碁を打つものは誰もが一目（

もく）でも強くなりたいと思っていますが、なかなか強くなるのはむづかしいものです。何事でも一芸に秀でるのは本当にむづかしいということがつくづく思い知らされます。登山と同じで一合目より二合目、三合目と見晴しが良くなりますが勾配が急になるということでしょうか。

絵画



世話役 河井 苗夫

T.O.C.の数あるクラブの一つとして存在してききましたが、一段と厳しい不況の中、如何ながら生業防衛の為に趣味を楽しむ余裕も吹き飛ばされるクラブ員もあり、又絵画の性格上、十分に腰を落着けて会員相互出席の写生会を開く機会も持てずに来ました。併し個々にはそれぞれ研鑽を助んでおるのが現在の実情であります。

釣り

加太の五目釣り

世話役 田沢 秀夫

十月の中旬の第一回釣行「津風呂湖のヘラブナ釣り」が雨天で流れ、のびのびになっていたわが釣りクラブの第二回釣行を十一月二十三日に加太の五目釣りでも楽しもうと企画したものの、当日仕事の都合、各人の釣趣の違いもあって不参加者が多く、参加者は賀、片山両氏と私の三人という寂しい釣行となると、T.O.C.メンバーの加藤、野口両氏がとび入りで参加してくれる。

二十二日（土）午後六時半に学園前に集合加太に向う。車中でとび入り参加の加藤、野口両氏に釣りクラブへの勧誘をしたところ了承、これで釣りクラブメンバー五名の参加となる。加太の釣り宿に九時半到着。加太といえは昔からタイ釣りでの名の通ったところ、明日の釣果を期待してまずはビールで乾杯。

二十三日早朝五時半に加太港を出港約二十分で釣り場に到着、すでに約二十隻近くの釣り船が出漁中、船頭の合図で我々もイヤエビを餌に手釣り仕掛けを入れる。約二十分経っても五人とも魚信なく、船頭も我々に何とか釣らせようと場所替えのため、船を走らせ



る。三度目の場所替でやっと野口氏の手掌太のチャリコを皮切りにそれぞれガラシ、オコゼ、ハゲを上げるが数が少ない。九時頃から風が強く吹き荒れてきて操船が思うようにならないため釣りを断念帰港する。

五人でチャリコ、ハゲなど合せて二十尾というサッパリの釣果に終ったがウデよりもやはり波の高い時は掛かりが悪いというのが最大の原因のようだった。同宿のタイ釣り仕立の別船は、ミミイカを餌に四〇センチ級まじりのマダイを十尾ほど上げており、これから十二月に入ると型もよくなり状況さえ良ければかなりの釣果が期待できるとの、宿のおかみの話であった。